

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/9/22作成 (株)新出光

【概況】<金融引き締めによる景気減速懸念>

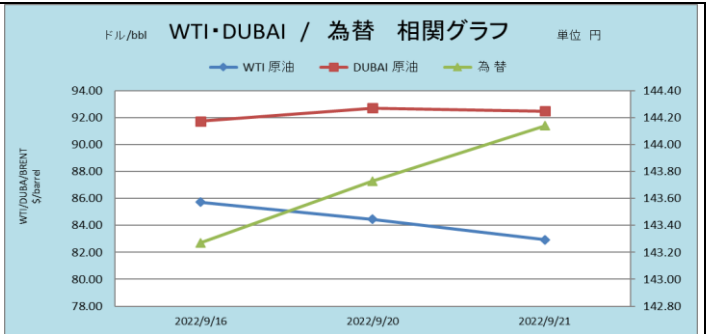
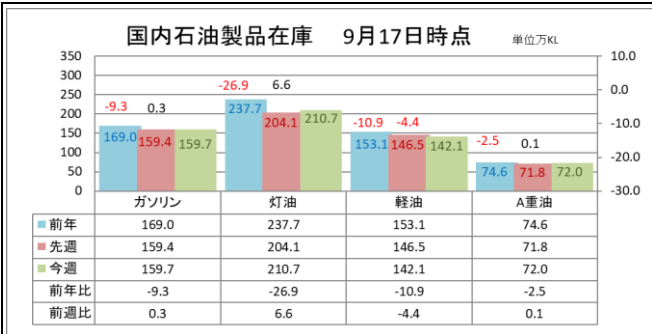
●16日、ロイター通信によると、バスラ港で15日夜に原油流出事故が起き、原油の積み込み作業が一時停止されました。供給不安から相場は一時86ドル台半ばまで上昇。前日の急落の反動から安値拾いの買いが入ったことも下値を支えました。ただその後、イラク国営石油会社バスラ・オイル・カンパニーは、流出が止まり輸出が徐々に再開していると明らかにし、供給不足への懸念が後退しました。また米欧中銀による積極的なペースでの利上げを背景に景気減速懸念が広がる中、エネルギー需要の先行きへの警戒感も根強く、終盤にかけて値を削りました。この日の株式相場が軟調に推移し、リスク資産全般に投資家心理も悪化したことも、売り材料となり相場は85.11ドルで、横ばいとなりました。

●19日、大幅利上げに伴うドルの先高観が意識され、ドル建てで取引される原油の需要に押し下げ圧力がかかるとの警戒感が広がりました。国際エネルギー機関(IEA)が先週公表した月報で示された、今年10~12月期の世界の石油需要の鈍化予想も重しと予想。ただ売り一巡後は買い戻しが活発になり、朝安を一掃する荒い値動きとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟国で構成する「OPECプラス」の8月の原油生産が、目標を日量約358万バレル下回ったとの報が支援要因となり最終の原油相場は85.73ドルへ反発しました。

●20日、米連邦準備制度理事会(FRB)による金融政策発表を翌21日午後控え、その後は流れが反転。FRBは今回の連邦公開市場委員会で、前2会合に続き、0.75%の追加利上げを決める見通しで、一部に1.00%利上げを予想する向きもあります。高インフレ対策として、欧州などでも金融引き締めを加速させる動きが広がっており、世界的に景気が冷え込み、エネルギー需要が鈍化するとの警戒感から原油が売られ相場は84.45ドルへ下落しました。

●21日、米連邦準備制度理事会(FRB)は21日の連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利を0.75%引き上げることを決めました。通常の3倍となる大幅な引き上げは6月以来、3会合連続。併せて公表された会合参加者による22年末の政策金利見通しでは、同年末までの2回の会合での計1.25%の利上げを想定されました。異例の大幅な金融引き締めの継続で景気減速に対する警戒感が強まり相場は82.94ドルへ下落しました。

9月22日	16:00現在	WTI原油	83.32ドル	為替 1ドル	145.51円
-------	---------	-------	---------	--------	---------



次回元売変動予測 9/29~ 元売変動予測

ガソリン	→	-0.1~+0.4
灯油	→	-0.1~+0.4
軽油	→	-0.1~+0.4
A重油	→	-0.1~+0.4
L S A	→	-0.1~+0.4

※原油コスト「-0.5~-1.0円」 USP宮む
 ※激変緩和補助金「-36.3円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<販売枠消化遅れ業者については販売競争がさらに強まる>

●**今週** 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「1.0円」、補助金は、「-36.7円」、都合「-0.1円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの19日時点の小売価格平均は169.7円となっております。今週は市況連動玉を持つ業者もある程度枠の消化が進み一部の地区では値上げしている業者も出て来ました。

●**9月23日以降** 次回の元売り改定は、原油コストはサウジ調整金+0.5円込みで「-0.5~0.0円」の改定予測で、激変緩和補助金は「-36.3円」の見込みで、都合「-0.1~+0.4円」の値上げ改定の予測となっております。原油動向についてはFRBの金利引き上げによる景気後退(リセッション)懸念により原油は下落しています。今週は、台風の影響もあり需要が減少しており、加えてガソリンについては、輸入玉が入着していることもあり、市況が日毎に下落しています。販売枠消化が遅れている業者は、市況が下落する前に玉を消化しようとするに販売を強化しています。複数製油所で流動接触分解装置(FCC)の不調があるため稼働率が低下していることと、ENEOS水島製油所第二トッパーが19日より定期修理の為、稼働を停止していることも重なり、灯油については、タイトな状況が続くと思われます。また、冬季需要に備えタンクに貯める需要家も出てきておりタイト感には更に増す可能性があります。

【次世代エネルギー】<ENEOS次世代型エネルギー供給プラットフォーム構築>

エネオス(ENEOS)は、自社の清水製油所跡地(静岡県静岡市清水区袖師)を中心とした次世代型エネルギーの供給拠点ならびにネットワークを両立させた「次世代型エネルギー供給プラットフォーム」を構築すると発表しました。2024年4月の周辺施設への電力供給開始および2024年度中の水素ステーション開所を目指すとの事です。エネオスは2020年7月に静岡県と、2021年7月に静岡市と、それぞれ次世代型エネルギーの推進と地域づくりに係る基本合意書を締結し、次世代型エネルギー供給プラットフォームの構築に向けた検討を進めていましたが、今回の決定により清水製油所跡地に「太陽光発電設備」「大型蓄電池」「自営線」「水電解型水素ステーション」などを設置し、再生可能エネルギー由来の電力および水素(グリーン水素)を製造・供給するとの事です。

具体的には、再生可能エネルギーの地産地消として、約3000kWの太陽光発電設備で発電した電力を、自営線を介して周辺施設、水素ステーション内の水電解装置(水素製造装置)へ供給。エネルギーの最適制御として、約7700kWhの大型蓄電池からの充放電、水素製造装置の稼働管理などを組み合わせてEMSによる最適制御を行ない、地産の再生可能エネルギーの有効活用や需給安定化を図るほか、EMSによる制御で得られた知見を今後の電気事業に活用していきます。また、水素ステーションにおいては、再生可能エネルギー由来のグリーン水素をFCVやFCバスへ供給し、新たなモビリティサービスの展開を検討していくとしていくほか、災害時(停電時)には、太陽光発電設備、大型蓄電池、水素製造装置を活用して電力、水素など自立的にエネルギー供給を行うことで、地域の防災、減災にも貢献するとの事です。

【出典】 ① <https://car.watch.impress.co.jp/docs/news/1430214.html>